

平成28年度

公立大学法人大阪市立大学の業務実績に関する評価結果
(年 度 評 価)

平成29年10月

大阪市公立大学法人評価委員会

目 次

評価にあたって.....	1
大阪市公立大学法人評価委員会名簿.....	1
項目別評価の基準.....	2
全体的評価.....	3
項目別評価.....	6
1 教育研究等の質の向上を達成するための措置.....	6
(1) 教育に関する措置.....	6
(2) 研究に関する措置.....	7
(3) 社会貢献に関する措置.....	7
(4) 国際化に関する措置.....	8
(5) 附属病院に関する措置.....	8
2 業務運営の改善及び効率化に関する措置.....	9
3 財務内容の改善に関する措置.....	9
4 自己点検及び評価並びに情報公開等に関する措置.....	10
5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置.....	11

評価にあたって

大阪市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定により、次のとおり、平成28年度の公立大学法人大阪市立大学の業務実績について評価を行いました。

評価については、法人の自律性、大学の教育・研究の特性に配慮しながら、法人から提出された業務実績報告書、関係資料の点検やヒアリング等に基づき、中期目標の達成に向けた中期計画の進行状況を確認するとともに、理事長兼学長より法人としての考え方をお聴きしました。

第二期中期目標期間より、法人の業務運営状況をわかりやすく社会に示すとともに、法人運営の改善・向上に資するよう、大項目評価に段階別評価を追加し、総合的・客観的評価に努めております。

なお、平成29年度は、第二期中期目標期間の最終年度にあたります。残り1年間となった中期目標・計画において、その着実な達成に向けた法人の取組を支援するとともに、平成30年度からはじまる第三期中期目標も考慮して評価作業を行いました。

大阪市公立大学法人評価委員会名簿

	氏 名	役 職 等
委 員 長	楠本 正一	大阪大学名誉教授
委 員 長 職務代理者	馬場 章夫	大阪大学 総長特命補佐 特任教授
委 員	桑原 秀史	関西学院大学経済学部 教授
	竹村 登茂子	株式会社読売新聞大阪本社 編集局 編集委員
	田辺 彰子	公認会計士
	眞下 節	市立豊中病院 総長
	宮本 又郎	大阪大学名誉教授

項目別評価の基準

大項目評価

- S 中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
(評価委員会が特に認める場合)
- A 中期計画の達成に向けて順調に進捗している
(すべて または)
- B 中期計画の達成に向けておおむね順調に進捗している
(または の割合が9割以上)
- C 中期計画の達成に向けてはやや遅れている
(または の割合が9割未満)
- D 中期計画の達成のためには重大な改善事項がある
(評価委員会が特に認める場合)

() の判断基準は目安であり、法人の諸事情を勘案し、総合的に判断する。
法人が重点的に取り組んでいる事項にかかわる取組を考慮する。

小項目別評価

- 年度計画が特に進捗している
- ・達成度が計画を大幅に上回る場合
- ・当該年度中に予定より早期に実施した場合
年度計画が進捗している
- ・達成度が計画どおりと認められる場合
- ・当該年度中に実施した場合
年度計画がおおむね進捗している
- ・達成度がやや下回るもののおおむね計画どおりと認められる場合
- ・実施が翌年度の第1四半期にずれ込むが確実な実施が見込める場合
(次年度の年度計画に影響しない場合に限る)
年度計画の実施にあたって課題がある
- ・達成度が計画より大幅に下回る場合
- ・当該年度中に実施できなかった場合
- ・計画設定そのものに問題がある場合

全体的評価

平成28年度は第二期中期目標期間の5年目であるが、当評価委員会では1年目から4年目にあたる平成24年度から平成27年度までの毎年度の業務実績評価において、おおむね順調に進捗しているとの評価をしてきているところである。

平成28年度業務実績に係る項目別評価の主な取組事項は次章に掲げるとおりであるが、大項目5項目のうち、A評価（順調に進捗している）が4項目、B評価（おおむね順調に進捗している）が1項目で、中期計画は、全体として順調に進捗していると認められる。

教育研究のさらなる発展のため、引き続き理事長兼学長のもと一体的かつ戦略的な法人・大学運営を行い、中期目標の達成に向けての取組について一層推進されることを期待する。

<重点的取組事項について>

法人においては、第二期中期計画を策定する際に、重点三戦略として 都市大阪のシンクタンク、「都市科学」分野の教育・研究・社会貢献、 専門性の高い社会人の育成、 国際力の強化を掲げ、また次世代エネルギー、健康科学、都市防災を三重点研究と定めて、第一期中期目標期間で築いた基礎を発展させる取組を行っている。評価委員会としてもそれぞれの取組に注目し、平成28年度業務実績における重点三戦略の取組のうち、次の点を特筆する。

都市大阪のシンクタンク、「都市科学」分野の教育・研究・社会貢献

- ・行政のシンクタンク機能を強化し、大学のプレゼンス向上を図る取組として、大阪市と連携協力に関する基本協定を締結し、大阪市のシンクタンク機能を担うとの位置付けを明確にした。また、大阪市とは特に地域福祉等の向上のための有効性実証に関する連携協定を締結した。
- ・複合先端研究機構は、学際的プロジェクトによる環境省の帯水層蓄熱事業、NEDOの温泉熱ネットワーク構築技術の開発および国交省の下水熱蓄熱融雪システムの開発を継続して推進した。
- ・都市防災教育研究センターは、近隣6区（住吉区・住之江区・西成区・阿倍野区・東住吉区・平野区）と6区防災連絡会を定期的開催し情報共有等を図った。また、災害対応訓練、防災まち歩きを活用を目的としたAR（拡張現実）アプリを開発した。

専門性の高い社会人の育成

- ・テニュアトラック¹普及・定着事業では、3年目テニュアトラック教員2名がテニュ

¹ テニュアトラック制：公正で透明性の高い選考により採用された若手研究者が、審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付の雇用形態で自立した研究者として経験を積むことができる仕組み。

ア審査に合格し、平成29年度から大阪市立大学のテニユア教員になった。

- ・文部科学省の科学技術人材育成費補助金において大阪市立大学、兵庫県立大学、大阪府立大学の公立三大学で「ポストドクター・キャリア開発事業」を実施した。

国際力の強化

- ・留学支援として、グローバルビレッジ²において、「グローバル塾」、「Cooking with President」、「チャイナフェスティバル」などといった国際的なイベントを開催して学生のグローバル感覚の醸成を図り、また、「夢基金海外留学奨学金事業」により、海外留学支援を実施した。
- ・優秀な外国人留学生の確保を目指し、米国ウィーバー州立大学からの学生受入れ短期日本語研修プログラムを実施するとともに、日本語学校やJASSO主催の留学生向け入試説明会に参加し、留学生向け広報活動にも積極的に取り組んだ。

<重点的取組事項以外の主要な取組について>

28年度に設定した新たな学長スローガン「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」の実現に向け、その具体的取組を統括する部署を設置するとともに、スローガンの推進のために学長裁量経費を重点配分するなど、学長のリーダーシップのさらなる強化に努めた。

大阪府立大学と共同で新大学推進会議・法人統合実務者検討会議などを設置して大学統合や新法人の概要について検討するなど、新大学実現に向けた取組も進めた。

<前年度評価委員会における主な指摘事項について>

前年度の主な指摘事項を受けた取組について、次のとおり確認した。

昨年度の主な指摘事項

これまでは数による目標設定が中心であったが、今後は取組の質的向上を図る目標設定も求められる段階に入っている。計画段階において、目標達成のための手段も明確にして計画に取り組み、着実な成果につなげられたい。

大阪における公立大学として、シンクタンク機能を発揮し、大阪が抱える都市問題の解決に取り組んでいることは評価できる。引き続き、学外との連携・交流の推進と学内における教育・研究の質の向上とのバランスに留意しながら、総合大学としてクロスイノベーションを拡大させ、企業や行政とも連携し、大阪の発展に貢献する取組が推進されることを期待する。

²グローバルビレッジ：日本人学生と外国人留学生が自由に集い、交流し、学びあえる環境を提供することにより、グローバル感覚の醸成、海外留学意欲の向上、異文化理解などを促進し、グローバル人材の育成に寄与するとともに、キャンパスの国際化を図ることを目的としている（平成28年4月設置）。

平成29年度計画について目標を達成するための具体的な計画と手段、計画達成水準を設定した。

学部・研究分野を超えた連携を強化しクロスイノベーションを加速するため、健康科学領域を中心に知と健康のグローバル拠点事業統括室において関係教員へのヒアリングなど研究シーズの調査を行った。

<主な指摘事項等>

大学を取り巻く社会情勢がめまぐるしく変化する中において、以上のとおり中期計画に沿った取組を着実に推進している。より一層積極的な取組を要する点は次のとおりである。

公開講座を中心とした社会貢献活動を活発に行っていることは評価できる。一方、これらの活動に取組む教員に負荷のみがかかることのないよう、今後は社会貢献活動を教員評価に繋げる仕組みを検討されたい。

取組みに対する成果を具体的に示す手法について検討されたい。

項目別評価

1 教育研究等の質の向上を達成するための措置

大項目別評価	小項目数	評価	評価	評価	評価
B おおむね順調に進捗	53【27】	2【2】	50【24】	1【1】	0

【 】重点項目の内数

全学的及び各学部・研究科による教育研究等の質の向上に向けた取組が、中期計画の達成に向けておおむね順調に進捗していると認められる。

(1) 教育に関する措置

主な取組事項

学士教育課程

- ・国際化に向けたグローバルコミュニケーション（GC）副専攻や地域社会における課題解決のためのコミュニティ再生（CR）副専攻について継続して実施した。

社会人教育（文化人材の育成）

- ・平成27年度に開始した「大阪文化ガイド＋（プラス）講座」（履修証明制度）について、新規科目「大阪の地域・文化実践演習」を開設し、講座の充実を図った。

学位の質保証

- ・各学生の多様な学修成果を総合的に評価しうる指標の開発とその活用スキームの構築を柱とするプログラムが、文部科学省のAP（大学教育再生加速プログラム）事業に採択された。

学生への支援

- ・学生の海外留学意欲を向上させるために、「夢基金海外留学奨学金」による経済的支援を行った。

意見・指摘事項

大学院教育

- ・平成27年度より設置した大学院共通科目については、試行科目として開講されているところであるが、履修者が理系に偏るなど科目の設定については検討を要する点があると思われる。大学院のあり方を検討する中で、引き続き共通科目の充実に向けて取り組まれない。

(2) 研究に関する措置

主な取組事項

都市科学等の重点研究

- ・ 複合先端研究機構では、学際的プロジェクトによる環境省の帯水層蓄熱事業、NEDOの温泉熱ネットワーク構築技術の開発および国交省の下水熱蓄熱融雪システムの開発を継続して推進した。
- ・ 都市防災教育研究センターでは、近隣6区（住吉区・住之江区・西成区・阿倍野区・東住吉区・平野区）と6区防災連絡会を定期的を開催し、情報共有等を図った。また、災害対応訓練、防災まち歩きの利用を目的としたAR（拡張現実）アプリを開発した。

研究者の支援

- ・ テニユアトラック制度の学内への普及・定着を促進し、若手研究者育成に向けた制度を実施した。また、卓越研究員制度の活用を図り、優秀な若手研究者を採用した。
- ・ ダイバーシティ推進センター・女性研究者研究活動支援室が学内の関連組織や大阪市等と連携を図り、セミナーを開催する等の女性研究者支援を推進した。

意見・指摘事項

国際交流の促進

- ・ 海外の交流研究機関との連携を強め研究者等の交流を促進したことの成果指標として、大学間学術交流協定数以外の指標の設定も検討されたい。

(3) 社会貢献に関する措置

主な取組事項

シンクタンク拠点

- ・ 行政のシンクタンク機能を強化する取組として、大阪市と連携協力に関する基本協定を締結し、大阪市のシンクタンク機能を担うものとしての位置付けを明確にした。

理学部附属植物園

- ・ 植物園での教育・研究の成果としての講演会や研究会を開催するとともに、その成果を社会へ還元するために市民講座や市民参加イベントを企画・実施し、多くの参加者を得た。また、平成27年にまとめられた「植物園基本構想への提言」をもとに情報発信の強化、業務運営体制の見直しを行った。

都市健康・スポーツ研究センター

- ・ 大阪市と運動・スポーツを通じた連携協定を締結した。連携協定に基づいた事業と

して「スポーツを通じた健康長寿社会の創生」をテーマとしたワークショップ等を実施した。

意見・指摘事項

シンクタンク拠点

- ・シンクタンク拠点として活発な活動が行われていることは評価できるが、教員の他の教育研究活動とのバランスに留意するよう努められたい。

(4) 国際化に関する措置

主な取組事項

優秀な外国人留学生の確保

- ・日本語学校やJASSO主催の留学生向け入試説明会に参加し、留学生向け広報活動を行った。

グローバル人材の育成・留学支援

- ・海外研修必須化の具体案として、試行プログラム実施要領を策定・公募し、2件について試行実施した。

意見・指摘事項

留学生の教育・支援

- ・留学生が帰国後に市大での留学経験を活かして母国で活躍できるような人材育成を目指した教育を行われたい。また、卒業留学生と大学とのネットワーク強化にも努められたい。

(5) 附属病院に関する措置

主な取組事項

専門医療

- ・造血幹細胞移植拠点病院としての機能の充実を図り、造血幹細胞移植の実施や造血幹細胞移植セミナーの開催、研修として医師・看護師・HCTC・管理栄養士の受入れを行った。

意見・指摘事項

市民への健康支援

- ・先端予防医療部附属クリニックMedCity21について、新しい診断・治療・予防に役立っているために「バイオリポジトリ(バイオバンク)」事業を行っていることは評価できる。MedCity21の安定的運営を図り、先端予防医療研究を推進するためにも、受診

者をさらに増加させる取組を行われたい。

病院経営の改善

- ・診療科別の損益算定及びデータ開示を実施しコスト意識の醸成を図ったことは評価できる。今後は管理会計システムを用いて即時性のある分析を行い、その結果を経営の更なる改善に向けて活用されたい。

2 業務運営の改善及び効率化に関する措置

大項目別評価	小項目数	評価	評価	評価	評価
A 順調に進捗	9	0	9	0	0

業務運営の改善及び効率化に関する取組については、中期計画の達成に向けて順調に進捗していると認められる。

主な取組事項

学長のリーダーシップ

- ・学長スローガン実現に向けた具体的取組を総括する「知と健康のグローバル拠点事業統括室」を設置した。また、具体的な企画を実施する「産学官連携プロジェクトチーム」、「地域貢献事業プロジェクトチーム」、活動の全学共有化を図るための「知と健康のグローバル拠点事業推進会議」を設置し、体制を整えた。

意見・指摘事項

効果的な教育研究基盤や支援体制の構築

- ・学長のリーダーシップ発揮に向けた体制整備が進んでいるところであるが、今後はこれらの組織全体が有機的に連携できるように努められたい。

3 財務内容の改善に関する措置

大項目別評価	小項目数	評価	評価	評価	評価
A 順調に進捗	4	0	4	0	0

財務内容の改善に関する取組は、中期計画の達成に向けて順調に進捗していると認められる。

主な取組事項

外部資金の獲得と支援体制

- ・ 定例ミーティングを開催することにより、U R A³と産学連携コーディネーターの連携を深め、産学官連携を強化した。また、外部資金獲得、研究プロジェクト企画にU R Aが積極的に関わることにより、U R Aの普及・定着に努めた。

意見・指摘事項

外部資金の獲得と支援体制

- ・ 研究系外部資金は今後、益々重要な研究原資となる。目標達成に甘んじることなく、U R A活動強化などに一層努力して、中長期にわたる事業の取組を見据えながら、更なる外部資金の獲得に努めていただきたい。また、U R A活動強化にあたっては、研究プロジェクトの迅速かつ円滑な遂行や教員の負担軽減を図る視点をもって、効率的な活動に結び付くよう取り組んでいかれたい。

4 自己点検及び評価並びに情報公開等に関する措置

大項目別評価	小項目数	評価	評価	評価	評価
A 順調に進捗	5	0	5	0	0

自己点検及び評価並びに情報公開等に関する取組については、中期計画の達成に向けて順調に進捗していると認められる。

主な取組事項

効果的な点検評価

- ・ 最終年となる第二期教員活動点検・評価期間の学内外評価の実施方法について、検討を重ね決定した。また、平成29年度から始まる第三期教員活動点検・評価に向けて、評価項目や記入様式等について検討し決定した。
- ・ 教育研究戦略機構の下に設置した教員人事制度改革WGにおいて、教員活動点検・評価の活用方法の議論を進め、具体的な活用案を整理した。
- ・ 平成27年度に受審した大学機関別認証評価での指摘事項への対応策について、各学部・研究科に調査・ヒアリングを実施した。また、各学部・研究科で実施している外部評価の実施状況とその活用方法を確認し、全学評価委員会で意見交換を行った。

³ U R A：ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーターの略。研究資金の獲得・管理・報告及び複数の研究機関・研究者・民間企業等が参画する研究プロジェクト等のマネジメントの充実・強化を図り、本学の円滑な研究活動の推進に寄与することを目的とする。

意見・指摘事項

ホームページ等情報発信ツールの充実

- ・ホームページなど情報発信のツールを充実してきたことについては評価できる。今後は、日本語以外の言語で積極的な情報発信を行った結果を数値で測定する工夫をされたい。

コンプライアンスの徹底、公益通報

- ・外部資金の執行にあたっては、引き続き適正な管理をされるよう徹底されたい。

5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

大項目別評価	小項目数	評価	評価	評価	評価
A 順調に進捗	10【2】	0	10【2】	0	0

【 】重点項目の内数

その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組については、中期計画の達成に向けて順調に進捗していると認められる。

主な取組事項

国際交流の安全対策

- ・ホームページやポータルサイトを通じて、「留学の手引き」などによる海外渡航時の安全確保に関する注意喚起と、外務省渡航登録サービスへの登録の周知を実施するとともに、海外危機管理の一環として、学生及び教職員の「海外渡航登録」システムの本格実施を開始した。

意見・指摘事項

卒業留学生組織

- ・海外に居住している卒業生が増加していることを踏まえて、海外における卒業生の交流拠点の充実を図られたい。

市大サポーター戦略

- ・卒業生・保護者・学生などとの間のコミュニケーションを深め、大学・大学関係者双方にメリットのある関係性の構築を図ることにより、大学のステークホルダーとのつながりを強化していかれたい。

平成28年度業務実績報告書における小項目評価集計表

									小項目数	(参考) 対象となる 年度計画No	大項目 評価
	評価委員会	法人 自己評価	評価委員会	法人 自己評価	評価委員会	法人 自己評価	評価委員会	法人 自己評価			
教育研究等の質の向上を達成するための措置	2[2]	2[2]	50[24]	50[24]	1[1]	1[1]	0	0	53[27]	No.1～60	B
業務運営の改善及び効率化に関する措置	0	0	9	9	0	0	0	0	9	No.61～69	A
財務内容の改善に関する措置	0	0	4	4	0	0	0	0	4	No.70～74	A
自己点検及び評価並びに情報公開等に関する措置	0	0	5	5	0	0	0	0	5	No.75～80	A
その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	0	0	10[2]	10[2]	0	0	0	0	10[2]	No.81～89	A
合 計	2[2]	2[2]	78[26]	78[26]	1[1]	1[1]	0	0	81[29]		

[]重点項目の内数